

NPO法人社会還元センターグループわ会報
情報ぎゃらりー
 第43号

情報ギャラリー第43号
 発行日 2008年7月25日
 編集 グループわ広報部
 発行者 加藤 勇治
 発行元 NPO法人社会還元センターグループわ
 TEL(078)743-8101 FAX(078)743-3830
 Eメール group-wa@wa-net.jp
 ホームページ http://www.wa-net.jp

2008年グループわ第5回 定期総会
ボランティア活動の輪拡大に全力投球
新理事長 加藤 勇治(美10)が決意表明

特定非営利活動法人社会還元センターグループわの第5回定期総会は、平成20年5月27日(火) 午前10時からシルバーカレッジホールで、芳賀順子さんの司会で開かれた。

郷 肥三理事長(福9)が「19年度は、会員の意欲的な取り組みで、ほぼ順調に事業が推進されわの存在感が一層高まった。10年の節目の年。事業全般の見直しを行い、本部業務組織の改革を中心に検討を重ね、将来につながる基礎固めに着手した」と開会挨拶をした。来賓を代表して、こうべ市民福祉振興協会の米澤俊雄専務理事から「これからは人づくりが大切な課題であり、その意味でもグループわの評価は高い。今後も協力と支援は惜しまない」とのお言葉を頂いた。

他に主な来賓として、神戸市保健福祉局高齢福祉部森田文明部長、神戸市環境局地球環境課茶屋道利広課長、神戸市こども家庭センター野元幸次副所長、神戸市教育委員会指導部指導課

生徒指導係保田良明係長、神戸市社会福祉協議会福祉活動部小池裕部長、神戸市シルバーカレッジ小林和夫事務局長の臨席があった。

議長に井上堅さん(福8)書記に三島隆夫さん(生8)を選び、井上議長より当日の会員数1154名、総会出席者169名、委任状557名計726名で会員数の過半数を得て総会は成立している旨の報告があった。



選任された新役員

議事に移り加藤副理事長(美10)から平成19年度事業報告、西田財務担当理事から平成19年度決算報告、小林將悟監事から監査報告が、それぞれ

あり、一括採決の結果、挙手多数で可決された。井上議長から20年度新役員選任の提案があり、新理事長に加藤勇治さん(美10)はじめ下記の新役員が満場一致で承認された。

加藤新理事長が役員を代表して『10周年記念標語“とどけたい あなたのもとへ わの愛を”を合言葉に一人でも多くの方が元気でボランティア活動の輪に加われるそんな「環境づくり」「体制作り」を目指したい。』と力強い決意表明があった。

続いて藤田副理事長から平成20年度事業計画、西田副理事長から同年度の事業予算、加藤理事長から定款の変更についての提案説明があり挙手多数で承認され、主要議案すべての審議が終了した。

最後に退任役員を代表して郷前理事長からお礼のあいさつがあり、11時過ぎ閉会した。

引き続き、第2部の文化部会のパフォーマンスに移り、ハワイアン、奇術男声合唱、手話コーラスや銭太鼓、舞踊その他などがあり、終わりに混声合唱団と出席者全員で校歌を合唱して締めくくった。

監事	監事	環境未来館責任者	西区会長	垂水区会長	須磨区会長	長田区会長	北区会長	兵庫区会長	中央区会長	灘区会長	東灘区会長	いきがいの部会長	文化部会長	環境部会長	国際部会長	福祉部会長	理事(事業担当)	理事(事業担当)	理事(事業担当)	理事(広報担当)	理事(財務担当)	理事(総務担当)	理事(総務担当)	理事(総務担当)	理事(企画担当)	副理事長(財務担当)	副理事長(事業担当)	理事長(企画担当)
高橋孝男	上田市夫	米倉逸郎	茅中幸夫	中山幸夫	佐々信義	松本治司	佐伯義昭	大掛敏夫	五味正昭	福田望	白岩信義	阪本紘一	裏地彦允	菅田忠志	林哲司	横井幸雄	清水英暢	増金スミ子	米倉和子	長谷川洸士	一森美代子	宮崎芳江	渡邊佳視	高木稔雄	道満達士	西田圭一	藤田勝	加藤勇治
(国)	(生)	(生)	(生)	(国)	(福)	(美)	(国)	(生)	(福)	(国)	(国)	(生)	(食)	(生)	(生)	(福)	(美)	(福)	(生)	(国)	(福)	(生)	(生)	(国)	(国)	(生)	(福)	(美)
新	新	新	新	新	再	再	新	新	再	再	再	再	再	再	新	新	再	再	再	再	再	新	新	再	新	新	新	新

平成二十年度 社会還元センターグループわ新役員

新理事としての就任あいさつ

理事長に就任して

理事長(美10)加藤 勇治

さる5月27日の総会で理事長に選任され、重責に押しつぶされながら新職務に挑戦しております。グループわは昨年設立後10年の節目の年を迎えましたが、諸先輩や関係先の数多くの方々のご尽力で、今や会員数1000名を超える市内有数のボランティア団体として各方面から注目される存在となってきました。殊に「他のために」の実践を目指すシニアパワーには行政をはじめ各方面から熱い期待が寄せられています。わには有能な方が数多くボランティア志願者として登録されています。少子高齢化が進む社会にあって、経験ゆたかなシルバー人材を擁するわの活動は今後ますます重要性を増すに違いありません。一人でも多くの方がボランティア活動に加わり、ともに汗を流し、ボランティア先に喜んでいただける、そんな「環境づくり」、「体制づくり」に理事長として全力投球する決意です。

昨年、私たちは「業務刷新委員会」を編成し事業全般について見直し作業を行いました。そのなかで、私たちが今後事業運営の拠り所とすべき「基本理念」について検討を重ねました。理事長として以下の基本理念5項目を念頭に、これからの事業運営に当たってまいりたいと考えています。

1. 「市民の方々が真に求める活動(事業)を誠実に実践する。」(最優先すべき使命)

「とどけたい、あなたのもとへわの愛を」(10周年記念標語)を合言葉に会員は市民のために様々な活動(事業)に携わっています。市民の皆さんが求める活動を誠実に遂行することこそが最優先すべき使命です。

2. 「地域の方々と交流と地域に密着した活動を推進する。」

設立当初から「地域交流と地域社

会への貢献」が求められてきました。区会を中核とする地域社会への貢献は今後とも力を入れるべき重点課題です。

3. 「常に人材(会員)の確保、増強を図り、事業の安定的継続的推進を期す。」

“わ”の会員も高齢化が進み、毎年若返りを余儀なくされています。行政からの委託事業も増え、事業の公共性が一段と高まってきました。それだけに人材の確保、増強はシルバー人材で成り立っているわにとっては極めて重要なテーマです。

4. 「組織の活性化を図り、事業運営の効率化、健全化を推進する。」

事業内容が多様化し、会員数が4~5年もすると2,000名を超えると予想されるなかで、組織の活性化、効率化、健全化は最重要課題となることは否めません。

5. 「会員相互の融和促進と“やりがい”が実感できる組織風土づくりを推進する。」

チームワークと“やりがい”づくりは組織運営の根幹をなす重要命題です。組織活性化の精神的土台となるだけに常に組織を挙げて取り組む必要があります。

「再び学んで他のために」を実践するにはまだまだ未熟で経験不足ですが、皆さん方と力を合わせ 総力戦で各方面からの期待に応えてまいりたいと思います。わの活動が市民の皆さんから感謝され、また会員一人一人にとって、人生の活力となることを願ってやみません。

郷前理事長にわ顧問を委嘱

全理事の承認を得て、平成20年6月1日付で郷 肥三前理事長にグループわ顧問を委嘱しましたので本誌をお借りしてお知らせします。

わの組織力強化

副理事長(生9)西田圭一

昨年に財務担当理事になり、財政面をみると、ここ2,3年で飛躍的に拡大し、安定しつつあるが、一方、経営地盤である組織面では、現在1000人以上の会員を有する大規模な組織であるが、任意団体の頃のままの、いわゆる個人主義の面が多々あり、成り行き管理で部会、区会等がバラバラの運用を行っており、本部としての指導性(統率力)が発揮されていない。

実施事業は、あと2年先には契約切れ及び1年ごとの契約内容で収入が安定している状況ではない。今後わの存続を確固たるものにするには、会費だけでは何も出来ないので、実施事業を拡大または助成金の確保しかあり得ない。その為には本部(理事)の役割は重大で、且つ法的、社会的責任を負うこと大である

現在、理事が2~3年で交代しているが、経営基盤が確立していない状況から見て、企画力不足で大変不安定な経営集団(理事)であると思う。

そういう面で、本年副理事長になり、理事長を補佐する立場として経営基盤を強化すべく全力を注がなければならぬ。ものごとは、一長一短では片付かないが経営強化のためには、今まで手つかずの問題点を多少の軋轢があっても一つ一つ解決を図り、会員の総力を結集できるような組織を作り、組織力を高めていきたい。会員の皆様の協力をお願いします。

伝承人として

副理事長(福11)藤田勝

グループわが誕生して10周年を迎える年に入会させていただきました。わの活動が始まりました。記念事業活動を通して、先輩諸氏との交流の中で色々な事を学ぶことができました。また、本部主催の行事にはできうる限り参画・参加させてもらい視野を広げるこ
(次ページに続く)

(前ページより続く)

とができました。中には、お客様よりスタッフ人数の多かった行事のように失敗事例から学ぶこともありました。

このような一年間の活動体験から、痛切に感じていることは先輩諸氏の思いや発足した経緯などを風化せざることなく伝承していかななくてはと考えています。10年という時間の経過によって、もはや既に当時の思いや考えなど消え去ったものが出始めているのではないかと。

組織の発展を果たして行くことは当然の役目だが、それとともに現在実施している活動を、しっかり後継者に伝承して行く事も重要な役目であると考えている。これらを両立させる事が当事者としての役目とと思っています。

微力ではありますが、己の信ずるところを目指して努力してまいります。

忘己利他の精神で

(事業担当) (福 11) 増金スミ子

昨年一年、不慣れな仕事を楽しむことは、出来ませんでした。私にとっては大きな収穫の年でもありました。

ミスをしたくない人はいないわけで、私もいっぱい失敗して、皆さんにご迷惑をおかけいたしました。が、転んでもただ起きない「失敗は大きな教訓に変える」ことを、学びました。

この一年貴重な一里塚のグループわ活動を大切にしながら、次なる目標に伝授するきっかけ作りになるよう……

また、一年微力ながら、頑張らせて頂きますので、これからもご支援、ご指導を宜しくお願いいたします。

グループわ
ボランティア活動指針
標語入選作

とどけたい あなたのもとの わの愛を
ボランティア やってよかった あの笑顔
経験と知識が “わ” となり 他のために

わの存在にあらためて思う

総務担当 (国 10) 高木 稔雄

現在、わの会員十数名が神戸市内の小学校の理科授業のアシストを行っている。過日、文科省所管の独立行政法人「科学技術振興機構」から二名が実態調査のため来神、北区の小学校で参観した。その参観に同行し、あと機構の方と神戸市教育委員会の先生を交えて面談、私からわの概要を説明した。その席で、教育委員会の先生から調査団に、わには色々な経験・知識を有する方が多くおり、神戸市からの要請にもすぐ応えてもらえる信頼できる組織で有難く思っている。このような組織は全国的にも珍しいと聞いているとの発言があった。また機構の方からもわというものを全国的に紹介するとのことであった。このように少しずつわの存在価値が広く、深く認められつつある中、本部では日常的に処理すべき業務が多くあるが、総務としてもそれらに埋没されないように微力ながら多方面にわたる能力・経験を有する会員の皆さんの活躍を支援し、わの発展に尽くしていきたいと考えている。今年度も会員の皆様のご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。

わの活動の歯車として

(事業担当) (生 11) 米倉 和子

在学中は、2階の端にあるわの事務所にはたくさんの方々が入り出されているのを見て何をされているのかと思っておりますが、今回理事として中に入ってみると、グループわの皆様のパワー溢れるボランティア活動を支える歯車でした。私もその一員としてお手伝いしながら素敵な人生を送っていらっしゃるわの先輩方をお手本にしたいと思います。

役員退任ならびに 顧問就任にあたって

福祉 9 期 郷 肥三

3年間本部役員を務めさせて頂きました。この間、会員の皆様の意欲的な活動が幅広い分野で行われ、グループわの社会貢献活動の輪は大きく発展しました。神戸市民の皆様にも認められ、感謝されて、昨年9月、設立10周年記念事業も盛大に行われました。

この3年間、わの活動の中に身を置けたことを心より感謝しております。そして今後もわの活動がますます発展し、この日本の、ゆきすぎた自己中心の競争社会が少しでも修正され、心の豊かさが取り戻されることにつながってゆきまことを願っております。

このたび役員退任にあたり、はからずも顧問をおおせつかりました。また皆様と共に、神戸市民の皆様のニーズを感じとり、求めに応じた社会貢献活動を行って、わを盛り上げてゆきたいと考えております。

組織の活性化に向けて

広報担当 (国 11) 長谷川 洸士

情報ぎやらりーの編集を引き継いで、未熟なパソコン技術を教科書と首っ引きで、誌面作りにあたふたしながらあっという間に一年が過ぎました。この間いろいろのご意見、ご批判を頂き、有難うございました。グループわもNPO法人になって5年目となり、マンネリ化を避けるため業務刷新委員会で広報部の在り方についても検討され、現在第一線でボランティア活動をされている方々と本部との情報交換の手段として、情報ぎやらりー・ホームページを大いに活用して、組織の協力体制を一層強固なものにしていくことが必要と考えます。その為のPRを積極的に進めてまいりますのでよろしくお願い致します。

グループわとの出会い

(財務担当)(福12)一森 美代子



緑あふれる自然が
いっぱい環境の中での3年
間、終わるのかと少し寂しい
気持ちの時、グ

ープわからのお話がありました。

わについて何をしているのか？
詳しいことは全く知りませんでした。
体力と若い年齢(カレッジ生の中
では?)しか持っていない私に、何が
役にたつのかしら？と不安がいっぱ
いでしたが、これも出会い(ご縁)と思
いチャレンジしてみようと思ひ受けま
した。

私にとって、わの先輩の皆様との
交流は、これからの人生を豊かにし
てくれるチャンスです。今は何かお役
に立てるようにと、元気で楽しく、一
生懸命をモットウに奮闘している毎日
です。

大阪のおばちゃんになろう

(事業担当)(美12)清水 英暢



大阪のおばちゃんといえ
ば、でしゃばりで自分勝手。ど
派手な豹柄を好み何でもかんでも
噛んでくイメージ

は良くない。でも裏を返せば、気
さくで世話好きだし、漫才師に負
けない洒落やユーモアの持ち主、
何ごとにもくよくよせず今を楽
しむ度胸満点ともいえる。KSC
での3年間、植木等の歌じゃないが
描いた絵が5万枚、作った陶芸5
万個の私が絵筆や轆轤をひとまず
置き、体一つでわの本部に飛び
こんで3ヶ月。わからないことば
かりだが、先輩はとにかく元気や
る気いっぱいだ。はやく名前を覚
え、仕事を覚えて、いい大阪のお
ばちゃんをめざします。

楽しみながらボランティア

(企画担当)(国12)道満 達士



楽しかったシルバ
バ・カレッジの学
園生活に別れを告
げ、今度は、いな
み野学園に入学す
る抽選に当り喜ん
でいました。

突然に“わ”に入
ってボランティア
活動に参加しま
せんか、という
誘いがあったの
です。いなみ野
学園のこと、現
在の自分の病気
のことを申し上げ
お断りしましたが
、押されて、押
されて参加しま
した。

“わ”に入
って、西も東も
分らないうちに
、多くの方が元
気に楽しく活動
しているところ
に投げ込まれた
感じています。

いまは、“わ”
の本部の中で、
多様な活動を
すすめる歯車と
して、会員の皆
様の活動のお手
伝いに励んでい
ます。“わ”の
会員の方はじつ
に誠実にまた楽
しみながら活躍
されています。
また、いろいろ
と工夫をしながら
仕事をされてい
ます。たとえば
、むかし遊びの
グループでは紙
と木と絵の具で
子どもが楽しむ
小さな箱庭を作
成しています。

このような“わ”
の活動がさらに
発展していくよ
うに頑張るつも
りです。

**楽しく“わ”の仕事
をモットウに**

(総務担当)(生12)宮崎芳江



本校の建学精神
「再び学んで他
のために」を入
学後、少しでも
社会のために役
立つことがあれ
ばと思ひ、学

習支援活動を
始めました。
子ども達から元
気ももらってい
いことが一杯あ
り、楽しんで支
援しています。
卒業と同時にわ
の方より声を掛
けられて、お手
伝いぐ

らいと軽い気持ち
でお受けしまし
た。先輩諸氏の
パワフルな活動
ぶり、新米の私
はただおろおろ
するだけ、何も
出来なくてお荷
物の状態です。
一日も早くわの
仕事の内容を把握
し、スムーズに
お手伝いが、楽
しくできるよう
、気負わず、頑
張りしたいと思います
ので、よろしく
ご指導ください
ますようお願い
します。

歯車のひとつとして

(総務担当)(生12)渡邊 佳視



卒業後はゆっ
たりと体を休
め、気持ちに
余裕をつくり
、家のことに
も時間を割
けるだろうと思
っていたのが大

きな間違いで
した。

“わ”へのお誘
いがあったとき
、現在の自分の
病気を語り、お
断りしたものの
、つい押されて
引き受けたのが
運の尽き、ただ
でさえ手帳を埋
め尽くしている
予定に“わ”の
ことが入れば、
病気をする間
もないほど身動
きできぬ状況
となりました。

多岐・広範に
わたる仕事一つ
ひとつについて
、その内容を把
握することから
のスタートです
が、自分が“わ”
本部の歯車の
一つになっている
ことをあらため
て自覚するとき
、その重責ゆえ
の荷の重さを感じ
ずにはおれませ
ん。

そこで、“わ”
への参加をボラ
ンティアそのも
のと捉え、自分
がより成長する
ための足場とな
るように、諸先
輩の指導を仰ぎ
ながら誠心誠意
努めていきます
ので、ご協力ご
支援をよろしく
お願いします。



平成20年度新理事

学習支援校の先生方からの寄稿

『今日の先生方は、僕らと
同じ小学生やってんなあ』
なぎさ小学校 縣 智佳子

「このお話ししてくださるの、本当はつらいんだと思いました。」
「あの踊りは、見ているだけで、なんだか気持ちがやさしくなれました。」

これは、昨年戦争体験のお話を聞かせていただいた後に書いた児童の感想文にあったことばです

本校の6年生は、世界の中の日本、「平和のとりでを築こう」ということで、総合学習の中で平和学習に取り組んでいます。その取り組みの一つとして修学旅行では広島に行き、原爆ドームや平和記念資料館の見学をしています。ただその戦争の傷跡が「昔のこと」「遠いところで起きたこと」にならないよう、神戸に住む戦争体験者の方々のお話として、毎年、グループわのみなさんに実体験のお話を聞かせていただいています。

昨年は、「神戸大空襲」「京都の建物の疎開」「異国の地で体験した戦争」についてお話をいただきました。自分のおじいちゃんやおばあちゃんと同じ年ぐらいの講師の先生方のお話には、いつもは落ち着きのない子供たちが、先生方を見つめ、食い入るように話を聞いていた姿を思い出します。疎開中、逃げる自分たちの体のそばに焼夷弾が落とされたことや、ハワイという異国の地でも戦争の苦しみを味わったお話は、子どもたちの心の奥に届き、そんな時代でも強い意志をもって「生きよう」とされた方々がいるからこそ、今の自分たちがあるという感想を持った子もいました。戦争体験の「生の声」を聞かせていただいたことは、その後の学習への意欲につながりました。

学習指導補助をしていただいて
木津小学校 今井 啓裕

私が、木津小学校に転任した年に学習補助をしていただくお二人の方に初めてお会いした。当初、時間の割り振りや連絡を担当した私は、お二人の都合のよい日に月3~4日、1日3時間の補助をお願いした。補助内容は、算数のプリント学習を軸にして、一斉指導後の練習問題のチェックをお願いしたり、九九を聞いていただいたりした。何度か来ていただくうちに学習の流れにも慣れられたのか、一斉指導の時は、気になる児童の近くにおいて、対応していただくようになってきた。それから、2年、3年と続いていくうちに学校のニーズが広がり、学習指導補助内容が、1,2年の子供たちの活動全般に広がっていった。

以前に補助していただく内容が変わったので、了解を得るために電話をさせていただいた時のこと、「いいですよ。」の快い返事があった。学習活動は、その時に応じて、お願いしたことが変化することがある。その要望にこたえていただけることに感謝している。ボランティア活動は、こうしないといけないとか、こうあるべきだという思いにとらわれすぎるとお互いに窮屈なものになってしまう。基本的なことは、決めていても肩張らずにその時に応じた活動を進めていくことが大切であると思う。

授業中に印象に残った光景がある。一斉指導が終わり、プリント学習した後チェックする時にボランティアの方の前には、長蛇の列、担任の前には、誰一人いない。子ども達はいろいろな方とのかかわりの中で学習していくことを望んでいると感じた。ボランティアの方にチェックしてもらいたい...そんなヒトコマであった。また、毎年、私が「来年もお願いします」

と声をかけると「『もう、来年は、いいですよ』と断られるかなと思っていました」という返事が返ってくる。私は、木津の子供たち全員にかかわって頂き、子どもたち全員がボランティアの方を知っているような関係作りが大切であると思っている。ボランティアは、継続していただくことが大変ありがたい。「来年も、再来年も。どうぞ、お手伝い下さい。よろしくおねがいします」

読み聞かせ
樋谷小学校 榎原 恭子

樋谷小学校では、学期毎に2~3週間、朝の15分間ほど、「おはよう読書」を行っている。チャレンジタイムで本校に来て下さっている仲井先生と堺先生が読み聞かせをされていることをお聞きして、昨年度来ていただいた。他校では、地域に読み聞かせのグループがあり、その方たちがされていると聞くが、本校にはそのグループがないので、仲井先生や堺先生に出会えたのはとてもありがたかった。

読み聞かせをしていただいている時の子どもたちは、先生の声に熱心に耳を傾け、お話の中に引き込まれていた。その後図書室で同じ本を見つけると、「これ、読んでもらった本だよ。」と言いながら、話の内容を知っているにもかかわらず、また最初からその本をめくっていた。きっと、いつまでも心に残る一冊になるだろう。今年度もまた来ていただけることになり、子どもたちも担任もとても楽しみにしている。



チャレンジタイムの感想

櫛谷小学校 米川 勝弘

子供たちにチャレンジタイムの声を聞いてみると、

「私は、算数が苦手でした。でも、チャレンジタイムをしてから、ちよつとずつ、算数が好きになりました。計算ができて、先生方にほめてもらえるととっても嬉しいです。」「チャレンジタイムをして、計算が速くなったし、計算のやり方もよくわかるようになってきました。チャレンジタイムをがんばってよかったと思います。」

「僕は文章題が大きかったです。でも、チャレンジタイムに挑戦していくうちに文章問題がとけるようになってきました。面白いです。これからもがんばりたいです。」

「3年生のときは、ときどき計算まちがいが多かったけど、4年生になったらほとんどまちがえなくなったから、力になっているなと思いました。10マス計算をする時、何秒でできるか楽しみです。」

「3年生から1年間チャレンジタイムをしましたが、自分ですごく力がついたらなあと思いました。それと、2年目なので、チャレンジタイムの楽しさに気がついてきました。」

と笑顔で答えました。

ゲストティチャーの4人の先生方には、お忙しい中、月に2回櫛谷小へ来校いただき、子どもたちをご指導くださり、いつもありがたく思っております。子どもたちにあたたかい言葉かけをされながら、真剣に取り組まれる姿は、私たち教師の手本となるものです。

これからも末永くご指導をよろしく願いいたします。



シルバーカレッジ地域交流授業に参加して

こどもたちの学習支援委員会 (国12) 道満 達士

例年のように6月24日(火)、25日(水)、26日(木)の3日間、カレッジホールで地域交流授業が行なわれました。

子どもたちの学習支援活動委員会では、中沢 保夫委員長が多数のシルバーカレッジの学生を前にして、子どもたちの学習支援活動について説明しました。

出席した学生さんに渡した資料は

グループ わ の概要

平成20年度 グループ わ

「子どもたちの学習支援活動」

要請の小学校と現在支援活動を

いる支援校の数

情報ぎやらりー42号、子どもたちの学習支援活動のページの抜粋です。

中沢委員長の説明と、詳しい資料をみながら出席者は熱心に耳を傾けていました。

この6月の地域交流会ではシルバーカレッジの松本容子教務リーダーからは「地域交流活動」の説明と神戸市市民参画推進局の中西 理香子主幹から「みんなで取り組もう美しいまち神戸」という講演。インターネットクラブの「活動報告ホームページへの登録」などあり有意義な授業でした。

季節の草花

オオマツヨイグサ

生8-文 久保 知彦

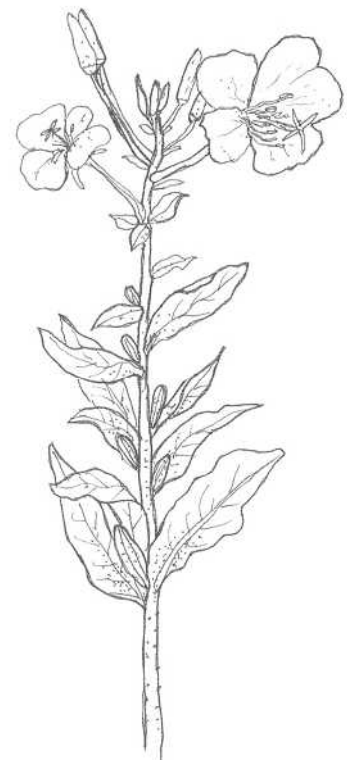
アカバナ科で、荒地などで夜に直径7cmくらいの黄色い花を咲かせ、草丈は150cmにもなるこの植物は、北アメリカ原産で明治初期(1870頃)に観賞用に導入されたものが野生化したものです。同じ頃渡来したメマツヨイグサをはじめオニマツヨイグサ、コマツヨイグサなどのマツヨイグサの仲間はいっぱんに「つきみそう」と呼ばれています。太宰治の「富嶽百景」にある「富士には月見草がよく似合ふ」とか、竹下夢二の「宵待草」(マツヨイグサを間違っただけ表現した?)や、野球の野村監督の代名詞になったりしていますが、本当は「ツキミソウ」という植物は別にあります。

嘉永4年(1851)に渡来した植物で、草丈は60cm位で暗くなってから白い花が咲き、朝には紅変してしぼんでしまいます。

同じ頃渡来したマツヨイグサのほうは野生化してまたたく間に日本国中にひろがりましたが、こちらのほうはその力がなく、栽培種

として細々と生きながらえたようです。

マツヨイグサは閉花後赤味を帯びますが、オオマツヨイグサは黄色いままなので区別できます。



東灘区会

東灘区新入会員歓迎会

生4-東 廣川幾雄

東灘区会では毎年新人歓迎会を5,6月の例会にあわせて実施している。今年は6月の例会日である17日に行われた。

毎回市内を軽く散策してから適当な宴会場で昼食会というのがここ数年の例であったが、今年は東灘区をはなれ相楽園見学ということにした。

午前10時相楽園門前に26名が集合したが、その中に「すこやか手帳」を持たない人(65歳以下)が3名も居るのには驚いた。なお、本部から増金理事がこの会のため

に遠路はるばる参加された。

相楽園は明治18年に小寺氏の私邸として建設された市民には馴染み深いところで今さら説明することもないが、よく手入れされた庭園を1時間ほど自由に散策して次の目的地パレスホテル神戸へ向かう。ここで待っていた7名と合流して33名で11時30分から6月の定例会を行う。案内された大部屋にわ東灘句会様とあったのに大笑い。電話で予約したとき



に先方が早合点したものだらう。

川柳名人のあきひろ氏が居たら早速一句ものにしたであろうが、残念ながら所要で欠席ということで誰からも一句も出なかった。

まず新入会員4名の自己紹介、引き続き6月の実施事項、7月のボランティア実施予定などの議事を手早くすませ予定通り12時から昼食会。軽く乾杯の後、かなり豪華な会席膳をいただきながら和やかな会話が弾み、時のたつのも忘れるほどであった。最後に昨年からの毎月唱和している東灘区会の歌を有志一同が唱和してお開きとなった。

灘区会

灘区の7月度活動報告

灘区会会長(国8)福田 望

前回の情報ぎやらりー誌(42号)の灘区会レポートはさぼってしまい、区会員の皆様に申し訳ありませんでした。

かねて、総会も終り本部役員も新鮮な人事でスタートをきりました。私たち区会も南八幡会館で第一回の会合をもち、新入会員の紹介、区会活動の現状と今年度の取組など話し合いました。

楽しくなければ“わ”じゃないよー。を合言葉に7月1日(火)兵庫津の道 七福神めぐりのウォーキングを企画。女性3名を含む10名の参加で、梅雨の合間の好天に楽しい汗をかいて交流しました。このコースの名ガイド、福祉7期の嶋岡氏がスタンプラリーで説明。神戸港発祥の兵庫運河周辺は歴史探訪にふさわしい神社寺院が多く、平清盛塚、琵琶塚、兵庫大仏など改めて兵庫津の道の魅力にひかれた1日でした。ウォーキングの後は慣例の会食で、地下鉄中央市場駅の高級寿司店でおまかせコースで乾杯、腹も値

段も満腹でした。行き慣れない寿司屋は必ず値を確かめて注文するよう悟った次第です。皆様お疲れさまでした。8月の企画は暑さに負けないソーメン流しか飯盒炊飯でもやろうとおもっています。

北区会

新会員と北区会役員との歓迎交流会

北区会会長(国8)佐伯義昭

平成20年6月2日(月)しあわせの村 研修館大会議室で新会員14名迎えての「新会員歓迎交流会」を実施しました(当日参加者総数33名)。平成20年度の新会員数は52名で出席者14名と云うのは寂しい気もするが返信による欠席者の回答多数は「当日ボランティアに出かける人たちやグループ行事など」諸事情による理由でした。

わ”本部から加藤勇治理事長を迎え、定刻9:30に始まりました。理事長からは北区会は“わ”の中で会員の中で会員数大派閥の地域で皆様に「地域の人達との交流や会員相互の交流など」でのボランティアランティア活動に期待する

ものが大であるとの挨拶があった。

その後、北区会の平成19年度の事業実績と平成20年度の事業計画などの発表や北区会役員の自己紹介をすると共に「神港園」、「花山梅林会」、「へ音記号」グループの各リーダーが最近のボランティアの活動状況を発表した。

そして「コーヒープレイクタイム」では、会員相互の話も弾み、少し和やかな雰囲気ともなり、新会員各位の自己紹介を行いました。新会員の中で、既に多くのグループに所属してボランティア活躍をされている方もいました。頼もしい限りだと思いました。新会員の中から5名の新役員も選出しました。そして和やかな交流会も目的を終え、散会しました。



新会員歓迎交流会

長 田 区 会

故郷の家

長田区区会長(美8)松本治司

長い間、日本で苦勞を重ね、今また孤独な生活を送っているコリアンの人達が、故郷の香りに包まれながら、安心して余生を暮らせる特別養護老人ホームが長田区にあります。

戦後60余年が過ぎ、在日3・4世の時代となり若い人達は母国語が理解出来ない時代となりましたが、在日コリアンの高齢者は今でもなお郷愁の思いに胸を痛み、そっと韓国の歌を口ずさみ故郷を偲びます。

そんな人たちのために、平成13年2月に長田区東尻池7丁目に「特別養護老人ホーム故郷の家」が出来ました。定員は58名ですが現在はほぼ満室で、祖国の環境に近い老人ホームとして好評です。韓国の研修生を受け入れたり、入居者はコリアンだけでなく日本人も3割を占めるようになりました。

その老人ホームに神戸市シルバーカレッジの卒業生が、毎月第3日曜日に喫茶サービスの慰問訪問をしています。この老人ホームはシルバーカレッジの福祉コースの生徒が授業の一環として見学に訪れる施設でもありますが、現在ボランティアとして活動している人たちのほとんどは福祉コースの卒業生です。

喫茶サービスの時間は14時から16時までで、コーヒ・紅茶・ジュース・ウーロン茶とケーキ等を準備して「オソオセヨ」(いらっしゃいませ)で皆さんを迎えます。

14時前からハラボジ(おじいちゃん)ハルモニ(おばあちゃん)たちが施設の職員が押す車椅子に乗って1階に降りてきます。1人1人に「おばあちゃん何飲む、おじいちゃん何食べる?」と尋ねます。直ぐに返事を呉れる人、長い間考える人、怒り出す人、眠っている人、そんなさまざまな個性の人達が集まりロビーが賑やかな喫茶店に様変わりします。ボランティアの人達は手慣れたもので、鮮やかな連携作業で1人1人の要望に応えます。

あつと言う間に2時間は過ぎますが、気遣いと、立っての作業なのでさすがに疲れます。そんなときに、食べ

終わった人達から「私まだ食べてない・飲んでない」と文句が出たりしますと、また一段と疲れが増します。しかし、「有り難う・美味しかった」と言って手を合わせて喜んでくれる人もいますので救われます。

今年からこのボランティアに、長田区会からも参加するようになりましたが、作業内容を考えると、以前から続けて居られる人たちには本当に頭が下がります。

ボランティアの内容も多種多様になりましたが、私自身、人が喜ぶ顔を見て感動し、また、参加して良かったと思う気持ちが自己啓発に繋がっているように思われます。



西 区 会

諸活動の継続と

4ブロック制のスタート

西区会会長(生11)茅中 英一

西区会会長を拝命致しました。関係者の皆様のご指導、ご協力、ご支援を頂戴してこの重責を担って参りたく何卒よろしくお願い申し上げます。今年度の西区会運営の重点的な考え方を次の2点にしたいと思います。

まず1点目は、これまで諸先輩が営々と築かれた諸活動の伝統を継承し次代へバトンタッチすることです。そのための支えが少しでも出来れば良いと考えます。次いで2点目は、今年度新たにスタートする「4ブロック制」が軌道に乗るよう幹事の方々や会員の皆様と共に努力することです。この制度は従来会員の顔が見えにくかったのを、近接する4地域に分け、先ずコミュニケーションを

良くし少しでも支え合えるようにすることです。

さて、1点目の活動継続の事例をご紹介します。会員が参加して平成17年12月から始めた竹の台小児童の登下校時の安全パトロールが2年半経った5月20日に500回目を迎えました。当日全校生徒が校庭に集合して、井内祐一会員(生環10期)ほか参加住民が代表して児童達から感謝されました。

現在は、竹の台の会員9名とKSC生2名に地元住民も加わり1日平均

16名が雨の日も風の日も児童達の安全を見守っています。本当にご苦労様です。当会としてもこの活動が継続され他地域へも広がるよう支援致したく考えます。

その他にも以下の活動が継続されています。コーラス「コロむつみ」、エルダービレッジ:喫茶支援・社交ダンス指導、神出自然教育園、

老健施設(「風と緑」:書道指導・花壇管理、「花と風」:社交ダンス)、竹の北公園管理、川柳指導:ビバサン神戸・デイサービス珠光庵、仲間農園指導、神出幼稚園:園児とミニトマト等野菜の鉢植えと管理。

また、「4ブロック制」については、先ず食事会やハイキング等のコミュニケーションから始め、会員相互の顔が見えるようにし、会員の皆様の賛同を得て少しずつ当制度や相互扶助制度への理解と活用の広がりにつなげ、地域で支え合える形にし、会員同志は勿論地域住民からも喜ばれる活動になれば良いと考えます。この1年間よろしくお願い申し上げます。



2008. 5. 20

福祉部会

延人数 180 人のボランティアの方を求めています。おちから添えをお願いします。
福祉部会長(福11)横井 幸雄

今年で 38 回目となる「こうべ子ども未来応援バザー」があります。
すべての子どもたちのすこやかな明日のためにー
これがスローガンです。

障害のある子どもたちに対する一般の人びとの理解と関心を高め、子どもたちを支援する活動をみんなの手で進めることを目的にして開催されます。

バザーの内容は広く市民より提供された善意の寄贈品を、趣旨に賛同し、応援して下さるボランティアの人たちの手によって寄贈品の整理・値付け作業をして、販売を行います。より多くの市民に理解をもって購入してもらい、その協力金を障害のある子どもたちの活動のために使われます。

バザーは 10 月 31 日より 2 日間開催されますが、準備のために 5 日間を要します。それだけ市民の方よりの寄贈品が多く寄せられて整理・値付けに多くの時間と労力が必要となります。延人数 180 人のボランティアの方の協力が必要なことをご理解頂けると幸いです。皆様のご理解と暖かいおちから添いをお願いします。

昨年の実績は要望人員 160 人に対して 60 人の方の協力を頂き、延人数は 116 人となりました。参加して頂いた方にはありがたくお礼を申し上げます。会員全体の参加率は 5.2% という結果で、会員皆様のご協力を切にお願いする次第です。昨年まで、ご協力を頂きました方には、今年もぜひともよろしく申し上げます。昨年バザーは 2 日間で 500 人の方が来場され、売上金は 113 万円という成果がありました。

主催は(財)ひょうご子どもと家庭福祉財団で多くの団体が支援して

います。
共に生きる、支えあう、活動にちからを貸してください。

シルバーカレッジ開校 15 周年 特別講演会の開催予告
KSC では開校 15 周年を記念して特別講演会が開催されます。この講演会にはグループわも協力することになっています。カレッジから皆様へ“福祉のこころ”を伝える機会として開かれます。ぜひ皆様お誘い合わせのうえ、ご参加ください。
日時 平成 20 年 11 月 16 日(日) 午後 1 時 30 分 ~ 3 時
場所 シルバーカレッジホール
講師 阿部志郎(神奈川県立保健福祉大学名誉学長)
応募方法等については、追って発表されます。

ミャンマー・サイクロン、中国大地震 災害緊急救援募金について
ご協力ほんとうにありがとうございました。
募金結果は次のとおりです。
ミャンマー・サイクロン募金
合計 28,166 円
中国大地震募金
合計 46,204 円
総合計 74,536 円
上記募金は、グループ わ から神戸市社会福祉協議会へお届けしました。なお、軍事独裁政権の国の場合は、直接被災地に浄財が行くルートと、被災者側に歓迎されるかたち(子どもの教育支援事業資金として使ってもらう)の支援方法を実行するとの回答を得ています。



車椅子テニスの試合風景

国際部会

車椅子テニス神戸オープン大会
へのボランティア参加
国 10 土井 昭政

昨年に引き続いて、「車椅子テニス神戸オープン 2008」が、4 月 26 日から 29 日にわたり、しあわせの村テニスコートで 130 名の選手が参加し競技が開催された。この大会は 1993 年からしあわせの村にて開催されており今年で 15 回目となる。グループわの国際部会は、毎年この大会にボランティアとして参加し、今年延 19 名がボランティア参加した。

具体的な活動は、テントの設営と撤去作業、選手の伊丹と関空への送迎添乗、駐車場の整理業務、弁当と飲み物の配布接待、トイレの汚物回収作業などである。

今年は海外からマレーシアと中国選手の参加があり、中国の選手は優秀な成績を残した。来年度は、更なる海外からの参加が予想されている。車椅子を操りながらテニスボールを追い、打ち返す技は本当にすばらしく、活力と技の結集ドラマである。私たちも大いにその躍動ぶりに感銘した。

今年は、天候に恵まれ、雨天の為に準備された三木防災公園屋内会場は使用されず、しあわせの村のテニスコートのみで実施されたが、来年度は多くの海外の選手と雨の対応も考慮して多くのボランティアが必要かもしれない。

閉会式で滑川実行委員長から、グループわのボランティア活動に謝辞をいただき、われわれの活動が評価されていることを痛感した。来年度も引き続きグループわ国際部会員の多数の参画を期待したい。



環境部会

神戸でG8環境大臣会合が開かれました

今年5月24日～26日の3日間、神戸でG8環境大臣会合が開催されたことに関連して、神戸のあちこちで関連イベントが開催され、グループわからも関連イベントに参加しました。 **環境部会長(生11)菅田 忠志**

G8神戸エコフェスタ デュオこうべで活動展示

主催 神戸市環境局 参加 14 団体

5月10日(土)、11日(日)の2日間、デュオ神戸でG8神戸エコフェスタが開催され、大学部門から5団体、企業やNPO法人から9団体が出展しました。

- ・ 目的: G8環境大臣会合を契機に、今後さらに環境への取り組みが一層進むようなムードの醸成を図る。
- ・ 概要: 市内で取り組まれている様々な環境活動を知り、楽しいエコライフを体感しながら、環境への意識を高めていく。

「NPO法人社会還元センターグループわ」からは、本部ポスター展示と、環境部会の登録グループである「神戸グリーンプラの会」のみなさんが提供された、製品展示と子どもうちわづくりの実演などの体験型参加に高い関心を集めていました。



上:グループわ展示ブース
右:グリーンプラの会によるうちわづくり実演コーナー



G8神戸エコフェスタ

神戸大学 神戸市協働公開講座

主催 神戸大学、神戸市

協力 NPO法人社会還元センターグループわ

G8環境大臣会合の神戸開催を機会に、神戸大学と神戸市で環境共生都市をめざす神戸の取り組みや歴史について、研究者の方の公開講座と、保全活動を実践されている団体の活動発表が、5月24日にポートアイランドの臨床研究情報センターでありました。

『グループわ』が会場運営にあたり、公開講座の間を13団体がポスターセッションスタイルでの発表の場が与えられ、グループわからは環境部会の活動発表を行ってきました。



G8神戸エコフェスタ 神戸大学・神戸市協働公開講座オプションイベント

神戸空港島人口海浜自然観察会

ー エコアップ・エアポートで、環境学を学ぼう! ー

主催:神戸大学、神戸市

後援:環境省、神戸新聞社

協力:須磨海浜水族園、須磨水族園ボランティア、
NPO法人ECOレンジャー、(財)神戸みのりの公社、
(財)こうべ市民福祉振興協会シルバーカレッジ事務局、
NPO法人社会還元センターグループわ

上記公開講座のオプションイベントとして、神戸空港島人口海浜で自然観察会が開催されました。ここでは須磨海浜水族園のウミガメの健康回復(日光浴)と、自然環境での行動調査のための人工海浜への放流や、神戸みのりの公社が卵から育てたヒラメの稚魚の放流に集まった多くの子供たちは、目を輝かせながら、海の自然環境と生きものたちのかかわりを体感しながら学んでいました。



春の森林浴ウォーキング 市立森林植物園～山田道を歩く

一般市民を対象とした「春の森林浴ウォーキング」、今回は梅雨空の隙間となった6月11日(土)新緑まばゆい神戸市立森林植物園内の散策コースから、午後は神鉄谷上駅へ下る森林浴コースを歩きました。森林植物園のコースは、一般の来園者としてはあまり歩かれることのない「思い出の森周回コース(山道コース)」を、植物園主査 福本さんの楽しく興味深い説明を聞きながら回り、昼食後にはこれまた運よく出会わせた“あじさい園クラリネットコンサート”を観賞することができました。午後は園内のよく整備された広い散策道を、絶え間ない小鳥のさえずりを聞きながら回遊し、植物園を出た後は山田道の森林浴コースを下り神鉄谷上駅で解散しました。

(文責) 森の仲間 (生11) 菅田忠志

(後日一般参加された方から下記のような感想文が寄せられました。)



案内して下さった福本さんの説明は、わかりやすくおもしろかった。運よく出会わせた“あじさい園クラリネットコンサート”を観賞 ありがとうございました。



森林浴を楽しんだ参加者一同

4月の末、『森の仲間からのお知らせです』との案内が入った。緑が好きで神戸市のトリコロールカードを持っている私には、とても嬉しいお知らせでした。早速参加の手続きをとると、後日参加要綱の葉書が配送されてきて、しっかりしたNPO 団体だなあと安心して今日の日を迎えました。

梅雨の間の晴れた日の森林植物園は、紫陽花にはまだ少し早すぎましたが、ほのかな香りのコアジサイ、とても素敵なお色のカルミア、また植物園主査 福本さんの面白おかしい説明は、ガーデニングクラブに所属している私には興味深い話ばかりでした。そして、何度も来ていたコースにも関わらず、いつもとは違った落葉の降り積もる、足にとっても優しく心地よい小道など、今まで私の知らなかった顔を沢山見せてくれました。

昼食の時には、一人参加の私に会員の方々からの温かい声掛けや、あちらこちらから様々なおやつ(なんともちろきゅうまで!!)をいただく等、楽しいランチタイムを過ごさせていただきました。

昼食が終わり、午後からの稲本 渡氏によるクラリネット屋外コンサートは、春蝉と小鳥のさえずりのコラボレーションが山間に響き、アメージンググレイスには胸熱くなり、なにかこみ上げてくるのさえありました。

今思えば、2月の神戸クリスタルタワーで受講したセミナー『歩いて知った森林浴効果』をきっかけにして、こんな素敵な時間を持てたことや、スタッフの方々のご尽力に対して本当に感謝したいと思います。ありがとうございました。(灘区 池尾 多津子)

「しあわせの村」で3回目の市民探鳥会を開催しました

5月18日(日)「しあわせの村」主催の3回目の探鳥会に、95名の市民が野鳥観察を楽しまれました。芝生広場から白川へ通じる自然歩道へ向けてスタート。鎮守の森を経由し、蛇美池を下に見ながら6箱の巣箱が設置してある場所のあたりまで来ると、ウグイス、シジュウカラ、ヤマガラ、ヒヨドリ他、晴れた春の空にきれいな声が、我々の耳から心の奥まで響く心地よいひとときでした。声はすれども小鳥の姿を見られるチャンスはそう多くないのですが、今回のトピックスは、珍しい「オオルリ」の姿が間近で見られ、その美しいさえずりが長時間聞かれ、参加された方にも喜んでもらえたことです。この鳥は夏鳥として南の国から繁殖のために村へ渡って来たもので、姿がコバルトブルーで美しいだけでなく、鳴き声もウグイス、コマドリと並んで日本3銘鳥の一つと言われています。また参加した子供達の中には、相当野鳥を勉強していて目を輝かせて観察していたのも印象的でした。観察した野鳥の“鳥合わせ”で、16種の小鳥の名前が確認されました。

巣立った巣箱に残る巣は、再び使われないため回収していましたが、この芸術品とも言える小鳥の巣は、希望者に持ち帰ってもらいました。

今後参加者が野鳥を通して少しでも自然環境保護に関心をもってもらえれば、私達サポートする側も元気を頂くこととなります。

(文責) グループ“わ”「野鳥と自然観察会」世話人代表 (生11) 茅中英一



スタート前の双眼鏡の正しい使い方指導



空き家になった巣は来年は使わない
写真はシジュウカラの巣

文化部会

手話コーラスで楽しく福祉講座
～神戸YMCA高等学院で～
手話コーラス同好会
(食文11) 井上 美津子

6月16・23日の両日、手話コーラス同好会は、西区の学園都市にある、神戸YMCA高等学院の生徒を対象に福祉授業を担当しました。3月に学院側から打診がありました。高校生を対象とする授業は私たちは初めての経験で、部内で検討し、学院側と打合せを重ね、学院側の「生徒たちに1つの達成感を味わわせてやってほしい」との声を受け、お引きうけすることにしました。

私たちは平素、介護ホームや福祉センターなど、高齢者を対象に手話コーラスを通して、楽しい時間を持つことを中心に構成しているプログラムを、平成生まれの若者たちにいかに展開するか、手話をどう伝えたらいいのか話し合い、まず、教案を作成し、授業のねらいとして次の4項目を基本とした。

平素何気なく手を使って(身振りや手振り)話をしていることに気づかせ、手話に興味・関心をもたせる

簡単な日常の手話ことばを理解させる

耳の不自由な人達が、気持や言いたいことを伝えたいと長い間、苦労してつくられたものであることを理解させる

手話ことばを組み合わせて、簡単な文章をつくり、歌を手話表現(手話ソング)することを通して、手話に親しみをもたせ、表現力を豊かにする

1日目は、生徒との交流、手話に興味をもたせることに重点をおき、押し付けにならないように配慮し、身近な題材を取り上げ、生徒たちにその例を挙げてもらう。



(YMCA 高等学院での授業風景)



心配していた若者の反応は「ヘーになるほど」「楽しい、もっと知りたい」「何で?がやっとわかった」「おはよう・・・こんにちは・・・こんばんは・・・みんな表現に意味があることがよくわかった」等々、私たちにも勉強になり、手ごたえ充分でした。

「夕焼け小焼け」「ふるさと」「千の風になって」などおなじみの歌を手話表現し(手話ソング)授業を進めた。生徒たちの感想は、「手話は難しいと思っていたけれど、楽しく覚えることができ、嬉しい」「小学校の時少し経験がある。それを思い出して楽しくできた」等々。

2日目は、挨拶・飲食物・数など日常生活の中の手話ことばの学習。前週、手話表現した歌を復習し、手話ソングは音楽療法としても活用できることを伝え、「見上げてごらん夜の星を」「そして思い出」「切手のないおくりもの」の手話表現に重点をおいた。女子生徒は天真爛漫・素直に楽しんでくれましたが、以外だったのが男子生徒たちの真剣な眼差し、熱心に、手を動かし、楽しんでいる様子には、感動すら覚えました。

当たり前のことなのですが、若いということの頼もしさは「覚えが早い」ということです。歌手の坂本 九が福祉活動でよく歌った曲「そして思い出」を取り上げたが、初めての曲を休憩時間に、早速口ずさみながら覚えたとの手話ソングをやっている姿です。「ヘー 流石若いね・・・」は私たちの感想です。

最後に「今日の日はさようなら」を皆で歌いながら手話表現し、授業を終えた。この福祉授業が手話に興味・関心をもち、高齢者や聴覚障害者を理解し、手話への扉を開くきっかけになればと願っています。

民謡記念演奏会ご案内

～民謡クラブ・民謡同好会の指導者 亀田俊彦(KSC音文1期生)喜寿記念～

と き : 平成20年9月23日(火)秋分の日 開場 11時30分
開演時間 12時～16時
と ころ : 舞子ピラ本館2F あじさいホール 入場無料
出 演 : 亀田俊彦(藤本流師範 藤本忠弥)の演奏を中心に、民謡クラブ
会員が唄い踊り、日ごろの成果を披露する。
プログラム : 「民謡紀行 奥の細道を訪ねて」、他 三味線合奏と唄と踊り
特別ゲスト : 藤本 欣秀 藤本 欣声
友情出演 : 藤本 忠成 藤本 忠杉
主 催 : グループわ 民謡クラブ・KSC民謡同好会

それぞれの民謡がもつ美しさ・力強さ・素朴さなどに触れると、心に安らぎと生きる力が湧いてきます。いっしょに民謡を楽しみませんか。多くの皆様のお越しをお待ちしております。

【お問い合わせ先】

小西利夫 Tel:078-791-4113

E-メール: kobe-konishi1109@kdr.biglobe.ne.jp

ボランティアに 参加して下さっている方へ グループ“わ”からのお願い

くれぐれも体調には留意して無理をしないでください。そして、少しでも異常を感じられたら、直ちに関係先に連絡して相談してください。

あなたの存在こそが、グループわの存在です。

もうひとつのお願い

ボランティア先では、依頼主の希望に沿って活動してください。依頼主の希望以上の事は決してしないでください。

依頼先には、依頼先の中での決まりごとがあります。ボランティアをする場合は、依頼先の希望以上の善意は、かえって迷惑となる場合もありますので、言われたことだけをやるように心得ましょう。

ボランティアの心

KSCのカレッジ情報誌に「ボランティアの心」と題したコラム設けることになり、長年ボランティア活動を続けているわの会員に、ボランティアの楽しさ・しんどさ・大事こと・心構えなど、エピソードや体験を交えながらの、執筆・寄稿の依頼がありました。

本部で人選の上お願いして快く引き受けていただいて、第1回5月号宮城智子さん(音2) 第2回6月号松本恒司さん(生7) が掲載されましたので、紹介いたします。

阪神大震災がきっかけに

音文2期 宮城 智子

私がボランティアを始めたきっかけは、阪神大震災でした。永年世話を続けた姑を見送った後、落ち込んでいたこともあって、何か社会へお返しが出来れば、という思いが強かった頃です。

早速、音楽好きの学友たちに呼びかけたところ、たちまち十数人が参加してくれ、キーボード・琴・尺八・三味線など、さまざまな楽器を持ち寄って歌と演奏の練習を始めました。3月頃から、あちこちの高齢者施設へ車5



~6台に分乗して出かけ、慰問活動にのめりこみました。「音楽がこんなにも人を元気にさせるものなのか」。そんな反応がうれしく、授業再会までの9ヶ月間、とても充実した毎日でした。「あの頃は本当に楽しかったね」。仲間と会えば、今も思い出話が尽きません。私自身も、この活動を通じてすっかり元気を取り戻し、ボランティアに目覚めたといえるでしょう。

卒業後も、「わ」のお世話や復興住宅訪問、外出介助など、数多くの活動で多忙な日々を過ごしています。気の合った仲間と施設を訪れて、一緒に音楽遊びや手芸をして過ごすひと時が、何よりの楽しみです。

ボランティアは、いまや私の元気の源。私も78歳になり、いつまで生かされるのか判りませんが、お世話になるより、お世話する方が幸せですよ。私の体験からいえば、ボランティア活動は、仲間づくりが出来たり、相手(利用者)から元気をもらったり、いいことが一杯あります。

でも、けっして無理をしないこと。体調が悪い時など断る勇気を持つことが、長続きのコツです。活動するときは笑顔で。それでこそ、相手と心の交流もできるのです。

ボランティア活動の旬

生環7期 松本 恒司

ボランティアという言葉が喧伝されるようになったのはいつの頃だったのか?あの阪神大震災を契機として広がったのではないだろうか。私も当時、長田区住民の一人で、住居も倒壊した。その時全国から集まったボランティアたち、日頃疎遠だと思っていた企業の炊き出しなど、忘れ

ることはできない。

私達の年代、幼時の遊びのステージは、おおむね戸外だった。悪童たちと交ざりあい、生き物や植物を見、手に触れて、おぼろげながら自然の仕組みを感じ取ったものだ。

私はこうした幼児体験が将来のボランティアの基礎になると信じている。ボランティア時代、家庭動員が盛んになって、父母がいて、兄弟がいるならば、子どもたちは否応なしに家族の温かみを受取るだろうし、近隣によき付き合いがあれば、社会のルールを肯定するだろう。

いま、こうした家族構成や近隣と言うミニ社会はすっかり変わってしまった。将来のボランティアはどのような形になってゆくのだろうか。現在、大学生を中心として、多くの若者がボランティアに励んでいる。これは歓迎できることだが、反面、卒業後も定職につかず、ボランティアが生きがいと、親の庇護をよすがとしている若者が増えている。我々の幼時体験とは違う生育を経た今の若者のボランティアは、いくらか危険を孕んでいる。私たちは戦後の飢えの時代から、高度成長期へ、多くは自我を封じ込んで家族を支え、社会に従ってきた。いま、そうしたしがらみからも開放され、封印されていた豊かな幼時体験が花開くときだ。

ボランティアの旬はまさにこの時である。その意味で神戸SCで学ぶなどは、素晴らしいチャンスだ。けれども、ボランティアをするにはいくらか資格がいりそうだ。一つは健康、もう一つはゆとりである。いま、私は自然環境についてボランティアらしきものを行っているが、ボランティアは楽しくなければならぬ。おのおの方、くれぐれもご無理なさらぬよう、肩張らず息長くやってみましょう。

(なお松本恒司さんは、投稿された後5月6日に心不全で急逝されました。この一文が遺稿となりました。謹んでお悔やみ申し上げます。)

ポンと10万円 郷 肥三氏から寄付金

このたび、前理事長 郷 肥三氏から、NPO 法人グループわ の活動に役立ててほしいと金10万円の寄付を頂戴いたしました。

郷 肥三氏は、2006年5月から2期にわたり理事長として、NPO法人グループわ の発展のため、惜しみなく持てる力と時間を奉仕してくださいました。これからも、グループわの顧問として、また一会員として、ボランティア活動に専念して下さるそうです。

グループわ一同、感謝と期待を込めて拍手を送ります。

ロゴマークの公募

グループ わ の各組織や活動グループが主催または参加するイベントで、その存在を明確にアピールする、のぼり、旗が必要と思われる。

NPO法人グループ わ の団体イメージを象徴するロゴマークを

制定し、わ のイメージや存在を内外に広く印象付けるとともに全会員の結束強化の旗印とするため、マークを公募します。

応募資格 “わ” 会員およびその家族関係者に限る。

応募期間

平成20年8月1日～9月15日

募集内容

グループ わ の団体イメージを表象する独自性のあるデザインであること。(他のシンボルマークの模倣やアレンジは不可)

出来るだけシンプルで、判りやすいデザインのもの。手書き、CG等描画方法は自由。色数の制限ないが、単色(白黒)表現でもイメージや安定感が損なわれないように考慮する。

応募方法

A4サイズ白色の用紙を縦長に使用のこと。

作品の上下を明記のこと。

自作の未発表の作品であるこ

と。同一人による応募は3点以内「住所」「氏名」「年齢」「連絡先電話番号」「デザインの趣旨」を作品の裏面または余白部分に明記の上、応募期間内に、わ 本部あて Eメールまたは郵送、持参して下さい。必要事項の記載がない場合無効とします。

応募規定

応募作品の著作権に関わる問題が発生した場合は、全て応募者の責任となります。

入賞作品の著作権その他の知的所有権はグループわに帰属する
応募作品は返却いたしません。

優秀作品の選考と表彰

応募作品の中から、最優秀賞(採用作品)1点、優秀賞2点、佳作3点を選考し、表彰と記念品を贈呈する。発表は情報ぎやらりー第44号誌上(平成20年10月末発行予定)

選考要領;選考委員15名(運営委員の中から選任)で応募者の名前を伏せ応募作品の中から上位10作品を選定(第1次選考)運営委員全員で第1次選考に残った10点の中から上記優秀作品を最終的に選定する(第2次選考)

奮って応募くださるよう、お待ちしております。

わ本部事務局は

8月11日(月)から

8月15日(金)までの間

夏休みを頂き閉局いたしますので
よろしく願い申し上げます。

編集後記

NPO法人となってから5回目の定期総会で、昨年検討された本部組織改革案を中心に組織力の強化を図る熱意に燃えた新理事の方々が選任されたことは喜ばしいことです。

広報部としても「広報のあり方」についての再検討を行い、会員皆さんのニーズに副った「情報ぎやらりー」「ホームページ」にしていくよう、広報委員会メンバーの増強を図りたいので皆様のご協力をよろしく願います。

第5回コーロKSC夢コンサート

～守屋先生喜寿記念～

日時	2008年10月21日(火)	
	開演16:00(開場 15:30)	
場所	神戸文化ホール・中ホール	
	入場無料(要 入場整理券)	
出演	混声合唱団コーロKSC	
	指揮	守屋 幸子、石田 明、倉島 律夫
	ピアノ	阪田 みゆき
演奏曲目	宗教曲	Ave verum corpus ほか
	日本の歌	荒城の月、見上げてごらん夜の星を ほか
	男声合唱	Sing Along ほか
	女声合唱	落葉松
	歌劇	楽劇「タンホイザー」より『巡礼の合唱』ほか
	管弦楽曲	交響詩「フィンランディア」より
	ピアノ独奏	アンダンテスピアノートと

華麗なる大ポロネーズ作品22

<会場の皆様と一緒に「赤とんぼ」を>

【入場整理券申込方法・申込先】

往復はがきに、住所・氏名・電話番号・希望枚数(1枚または2枚)を記入の上、10月7日(火)までに下記にお申し込み下さい。

(申込多数の場合は抽選になります)

〒651-1141 神戸市北区泉台3-37-13 大崎 秀貴 宛

【お問い合わせ先】 北部(Tel. 078-594-9606)